

申請者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	沖本 克子
調査研究課題	思春期発症2型糖尿病患児の病気認知とセルフマネジメント行動の関連 —栄養士の指導と関わりに着目して—					
調査研究組織		氏名	所属・職	専門分野	役割分担	
	代表	沖本 克子	看護学科・教授	小児看護学	研究の総括 インタビュー、データ分析、まとめ	
	分担者	平松 智子	栄養学科・准教授	栄養学	データ分析、まとめ	
		網野 裕子	看護学科・助教	小児看護学	データ分析、まとめ	
調査研究実績の概要	<p>遺伝体質に生活習慣などが絡み合って、以前は大人の病気であった2型糖尿病が子どもにも発症することが、わが国では学校検尿の導入により1970年代に明らかとなり、学校などで2型糖尿病の発症予防のためのさまざまな取り組みが行われているが、小児・思春期発症2型糖尿病は増加傾向にある。</p> <p>思春期は、ホルモンの変化により2型糖尿病を発症しやすく、精神的に不安定な時期である。2型糖尿病児は自覚症状がなく、多くの場合、まず食事・運動療法で血糖コントロールがはかられるため、インスリン治療中の低血糖やインスリン中断によるケトアシドーシスを経験することがない。そのため、2型糖尿病を発症した思春期は、血糖コントロールが困難、あるいは治療や療養の中断に至るケースもみられる。このことは、20代前半での網膜症や腎症などの重症な合併症の発症につながり、2型糖尿病は1型糖尿病に較べ予後が不良である。</p> <p>以上のことから、思春期発症2型糖尿病児には、思春期であることを考慮したセルフマネジメント行動への支援が重要となるが、どのような支援が望まれるのかについては、未だ十分に明らかにされていない。2型糖尿病児のセルフマネジメント行動への支援を検討するにあたり、セルフマネジメント行動に病気認知が影響を与え、病気認知は、医療従事者、親、過去の糖尿病に関連した経験などの影響を受けて形成されるという仮説のもとに、本研究では、食事療法に大きな役割を果たす栄養士に焦点を当て、栄養士の思春期発症2型糖尿患児への関わりを明らかにし、どのような関わりがセルフマネジメント行動を促進するのかを検討することを目的とした。</p> <p>この研究目的を達成するために、病院等に勤務している思春期発症2型糖尿病の子どもの栄養指導を経験した栄養士を対象として、半構成的インタビューを行い、質的帰納的に分析する研究デザインとした。</p> <p>当校の倫理委員会より研究の承認を得て、本研究を進めているが、インタビューは平成28年4月以降、実施する予定である。</p>					
成果資料目録	なし					